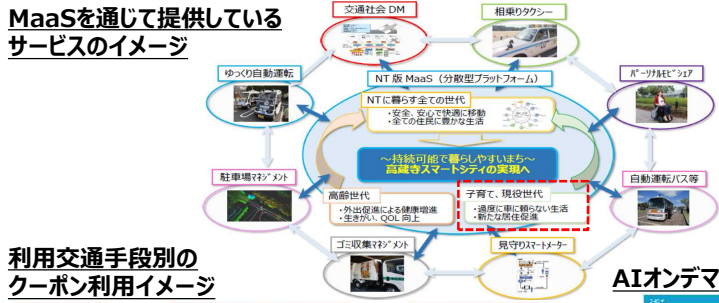



# 若年・子育て世帯を主対象とした商業連携モビリティサービス実証実験

昨年度までの実証実験で対象としていた交通弱者に加え、若年層居住者を対象にMaaSアプリを提供する。利用者に対して、来店交通手段別に異なる商業連携クーポンを配信し、自家用車の利用に依存しないニュータウン内生活を積極的に体験してもらうことで、高蔵寺ニュータウンの既存公共交通と新モビリティサービスの維持・活性化を目指す。

協議会の構成員	【幹事】国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学、春日井市、KDDI(株)、(株)KDDI総合研究所、名鉄バス(株)、春日井市内タクシー組合、UR都市機構、中央コンサルタンツ(株)		<div style="text-align: center;"> <h3>取組イメージ</h3>  <p><b>MaaSを通じて提供しているサービスのイメージ</b></p> <p>交通社会 DM、相乗りタクシー、NT版 MaaS (分散型プラットフォーム)、NTに頼らず全ての世代、NTに頼らず全ての世代 (安全、安心で快適に移動、重くの住居に豊かな生活)、子育て、現役世代、高齢世代 (外出促進による健康増進、生活が、QOL向上)、子育て、現役世代 (適度に頼らない生活、新たな存在受容)、自動運転/バス等、泊り/予約/シェア、自動運転/バス等、見守りスマートカー</p> <p>～持続可能で暮らしやすいまちへ 高蔵寺スマートシティの実現へ～</p> <p><b>利用交通手段別のクーポン利用イメージ</b></p> <p>アプリとGPS、BluetoothをON!、[サンマルシェ循環バス]または「オンデマンド乗合サービス」に乗り!、協賛店舗でQRコードを読み取り、レジで提示! 協賛店舗での割引</p> <p>※アプリはバックグラウンド可</p> <p>車内に設置したBeacon感知でクーポンを発行</p> <p><b>AIオンデマンド交通の経路検索</b></p>  </div>
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通サービスに対する若年層居住者のニーズを把握できていないこと</li> <li>高齢者等の自家用車を利用できない住民のニーズに対応した公共交通サービスの拡充・多様化を図れていないこと</li> <li>路線再編や運転手の減少による公共交通の供給量低下</li> </ul>		
取組の概要	期間	2020年12月11日～2021年2月28日	
取組の概要	エリア	愛知県春日井市高蔵寺ニュータウン、JR高蔵寺駅を含むニュータウン周辺部	
取組の概要	MaaSシステム	MaaSアプリ「高蔵寺おでかけアプリ」を独自に構築	
取組の概要	交通サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道、路線バスの複合経路検索機能の提供(自家用車を利用した場合の所要時間との比較が可能)</li> <li>AIオンデマンド交通の検索・予約・事前決済機能の提供(AIオンデマンド交通の、一部区間の運賃の値下げ、運行開始時間の繰上、小型バスから中型バスへの車両の変更等、昨年度の実証実験のサービス内容の改善も行う)</li> <li>MaaSアプリとBeaconを利用した、循環バスとAIオンデマンド交通の利用者のリアルタイムな乗降確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>※AIオンデマンド交通：AIを活用し配車・経路探索を行う乗合型のタクシーサービス</li> <li>※Beacon：信号を近距離に発信する発信機。本実験では、高蔵寺おでかけアプリを起動し、スマートフォン位置情報とBluetoothをオンすることで信号を感知する。</li> </ul> </li> </ul>	
取組の概要	交通以外のサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用した交通手段に応じた飲食店や小売店等のデジタルクーポンの配信</li> </ul>	
検証内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>経路検索の充実等による公共交通の利便性向上の検証</li> <li>AIオンデマンド交通の提供による若年層居住者の外出頻度の増加の検証</li> <li>デジタルクーポンの配信による利用者の外出頻度の増加の検証</li> </ul>		
<b>検証結果</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>経路検索機能は試行利用が多いため、継続利用に結び付いていない。一方、事後アンケート調査では、30代のモニターの6割が、サンマルシェ循環バスの利用が増加したと回答した。</li> <li>アプリからのAIオンデマンド交通予約・決済は、利用方法が浸透しなかったことや、自動車の利便性の高さゆえに利用されなかった。また、子育て世代のうちチャイルドシートが必要な方からは、自動車が安心との意見もあった。</li> <li>事後アンケート調査では、デジタルクーポンにより、約3割が協賛店舗への来店頻度が増加したと回答した。</li> </ul>			
<b>今後の方向性</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>経路検索機能等、利用ニーズを踏まえたアプリの機能充実や操作性向上の検討が必要。</li> <li>AIオンデマンド交通は、高齢者ニーズを踏まえ、交通事業者と必要なサービスの検討が必要。</li> <li>デジタルクーポンの提供により、若い世代の外出や公共交通利用の促進効果が見られ、継続的な実施が望まれる。一方で、協議会が負担したクーポン割引の財源や、店舗レジシステムとの連携に課題がある。継続的なサービスの充実には、住民へのアプリ利用方法の周知や、若い世代が魅力に思う協賛店舗拡充、協賛店舗の統括主体との連携強化の検討が必要。</li> </ul>			